

シンポジウム「世代間交流にみる諸活動」のねらい

仙台大学体育学部助教授 仲野隆士

今日のわが国は、グローバル時代を迎え情報や人の移動、経済や文化などの面でボーダレスが進んでいる。一方、地方分権化の流れに伴う市町村合併が現実起きており、地域に対する人々の思いも複雑な心境にあるのではないかと考えられる。このような現象は、わが国の地域文化の特色を弱め、あるいは喪失の危機に直面させるなど、大きな問題の一つに発展しつつあり、問題解決への具体的方策が社会的な課題となっている。

希薄化する地域や地域文化の特色を食い止めるための試みとして、全国各地でみられる伝統芸能や祭りの復興や再興、あるいは青森県の三内丸山遺跡を資源とした公園づくりなどを挙げることができる。また、欧米文化やエスニック文化をモデルとした地域づくりも試みられている。このように、国や地域は課題解決のための様々な試みを展開してきたといえる。

一連の試みの成否に関わらず最も重要なのは、それらを通じた人々の交流とコミュニケーションであろう。同じ日本人であっても、世代が異なれば考え方や文化が異なり、交流やコミュニケーションが欠如している傾向が強いのが現状であろう。それが、言葉、食習慣、生活習慣、障害の有無などが異なる人々で構成される多文化社会においては、交流とコミュニケーションを高める諸活動が極めて重要となる。その点に関しては、J.C.Pooley(1967)が「多文化共生を促進するには、自由時間を活用したスポーツ活動の交流が最も自然な媒体である」という前提条件を提起している(野川、2003)。彼の提起は、スポーツをレジャー・レクリエーションと置き換えても成り立つと考えられる。総合型地域スポーツクラブづくりが注目されている視点の一つには、スポーツやレクリエーション、あるいはその他の文化的活動を通じた世代間の交流とコミュニケーションの促進に対する期待があろう。

このような観点から、今回のシンポジウムのテーマを「世代間交流にみる諸活動」と設定させていただいた。パネリストは3名で、次に示すように各々異なる視点で講演いただく。その後、参加者全員で今回のシンポジウムのねらいである、世代間交流に果すレジャー・レクリエーション活動の役割や可能性について討議したい。

パネリストの視点…行政の取り組み、祭りの継承と地域文化、諸外国の政策

1. 行政の立場から、特に宮城県内の総合型地域スポーツクラブの取り組みと、世代間交流の促進への可能性という現場サイドの視点からの検討
2. 仙台3大祭りの一つとして存在する「すずめ踊り」という名の地域文化の継承と、世代間交流の可能性という実践的な視点からの検討
3. 英国におけるレジャー・レクリエーションと地域文化、世代間交流の政策の現状と課題という先進海外事情に対する学術的な視点からの検討